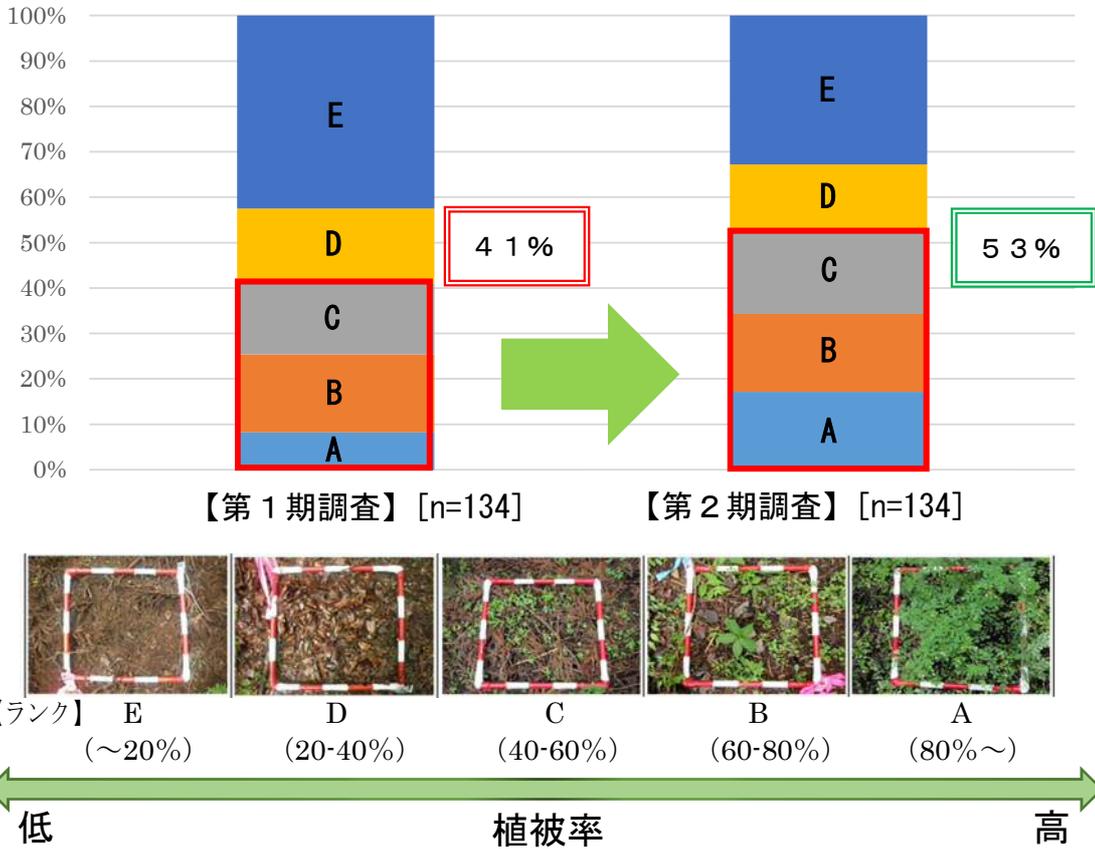


評価指標案に関する補足資料（数値データ、グラフ等）

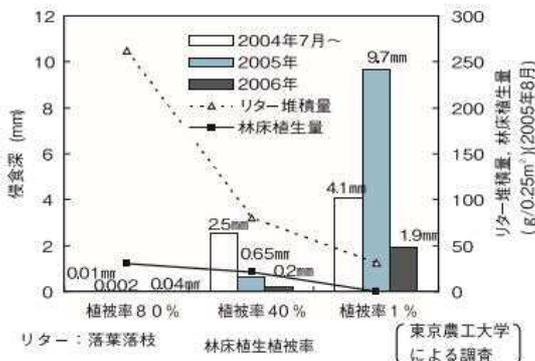
指標案①

植被率が高い（40%以上）森林の割合



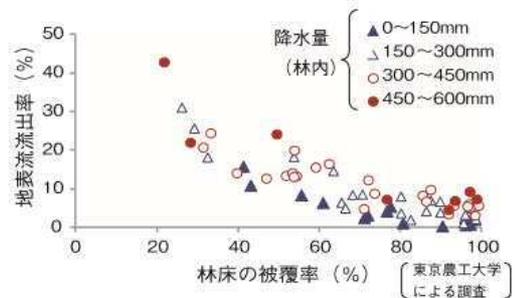
土壌流出の現状

地面がむき出しになると、雨が降った時に土壌が流出します。下層植生が地表面を80%覆っていた場所では土壌流出はほとんど発生しませんが、下層植生が地表面の1%しか覆っていない場所では年間で土壌表層の2mm~1cmが流出していました。これは、植生のまったくないげ山と同程度の流出量です。



植生被覆率と土壌侵食深の関係

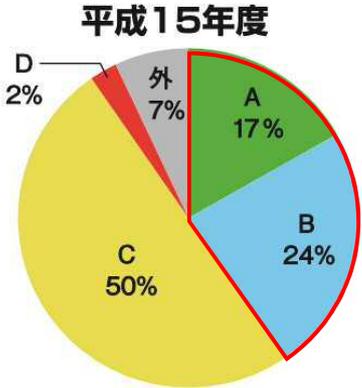
むき出しになった地面では、雨が降ったときに地中に水がしみこみにくくなります。下層植生や落葉による地表面の覆いが少ないほど、地表流は増加します。この地表流によって表層の土壌も流されます。



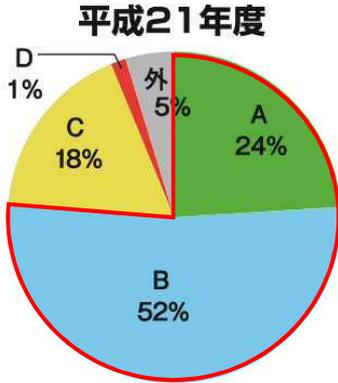
林床の被覆率と地表流出率の関係

指標案②

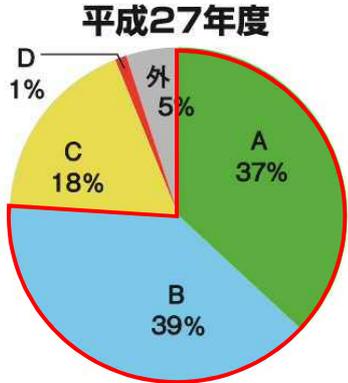
手入れが行われている森林（人工林）の割合
(Bランク以上)



41%



76%



76%

*(ランク)外:
人工林ではなく
広葉樹林化している。

A～Dランクの代表例



**Aランク「手入れが行われ
良好な状態となっている」**
5年以内に整備されているか、
良好に成林している



**Bランク「適期に手入れが
行われている」**
概ね10年以内に整備が行われ
ている



**Cランク「手入れが長く
行われていない」**
概ね10年以上手入れの形跡
がない



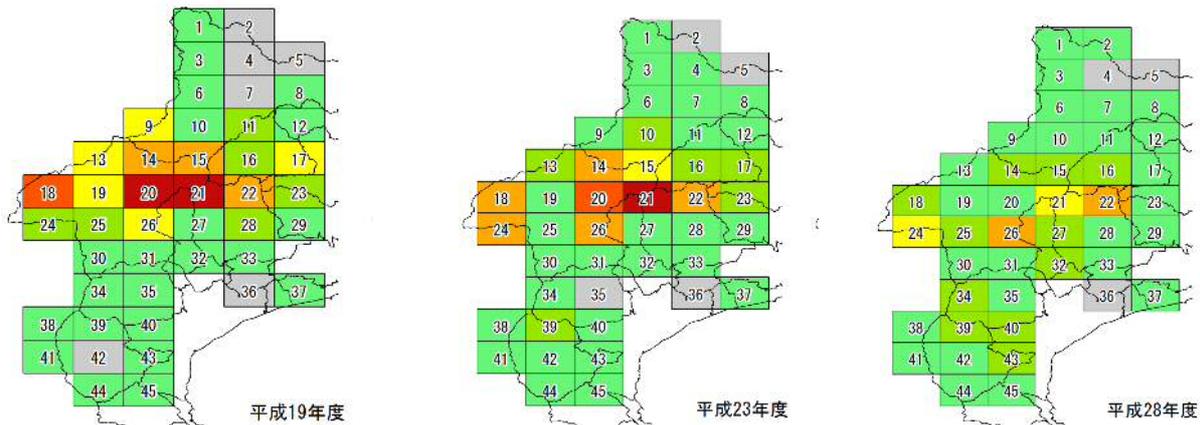
**Dランク「手入れが行われ
ていない」**
手入れが行われた形跡がない

参考指標案 A

シカの生息状況の変化

※シカの生息状況の変化を示す指標については、今後検討の上、選定予定

《例 糞塊法調査によるシカ生息状況の変化》（出典：第4次神奈川県二ホンジカ管理計画）



調査概要：シカ糞塊法調査（1 kmルートでの糞塊数のカウント調査）により、シカ生息状況レベルの比較を行う。県の西側で、全45メッシュ（4×5km 狩猟メッシュ）が調査対象となっている。

留意点 毎年11月に調査実施し、当該年のシカ季節移動等により前年と異なる傾向が出る場合があり、単年度ではなく複数年での傾向比較が必要。

凡例

X=糞塊密度（糞塊/km）

- 50<X
- 40<X≤50
- 30<X≤40
- 20<X≤30
- 10<X≤20
- 0<X≤10
- X=0

参考：シカ生息状況を示す糞塊状態と密度区分

シカの糞塊状態写真



糞塊密度 単位（塊/km）

「0~20：糞塊は少ない」「20~30：糞塊が散見される」「30~40：糞塊が多く認められる」

「40以上：糞塊が全体に多く認められる」

参考指標案 B

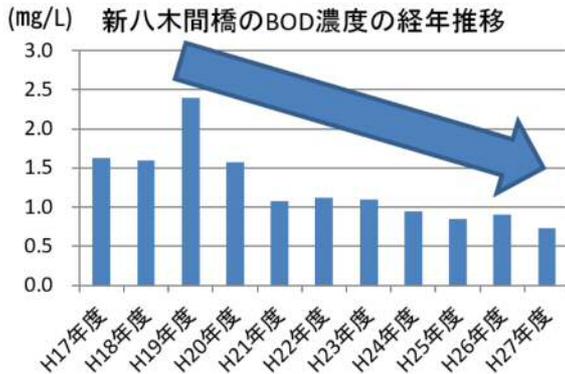
代表的なダム上流域における 土壌流出のランク別面積割合

資料 1 - 3 参照

指標案③

代表的な整備箇所における BOD、平均スコア値等

《例 厚木市（恩曾川）》



【平均スコア値】
(第1期) 5.5

【平均スコア値】
(第2期) 5.89

【BODの経年変化】

【平均スコア値の変化】

- ＜平均スコア値＞
- 汚れた水に生息する生物からきれいな水に生息する生物まで1から10のスコアを与え、採集された生物のスコアの平均値を求めることによって、汚濁の程度などを評価する方法。
 - 平均スコア値が10に近いほど汚濁の程度が少なく、自然度が高いことを示す。

指標案④

取水制限の日数

【相模川・酒匂川水系】

発生年	S42	H8
日数	40	78

施策開始以降、取水制限はなし

《参考：他水系の取水制限の日数》

【利根川水系】

(S47～)

発生年	S47	48	53	54	55	57	62	
日数	40	22	58	41	40	22	71	
発生年	H2	6	8	9	13	24	25	28
日数	45	60	117	53	18	23	57	79

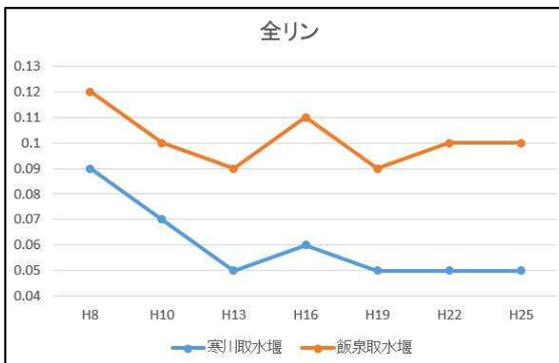
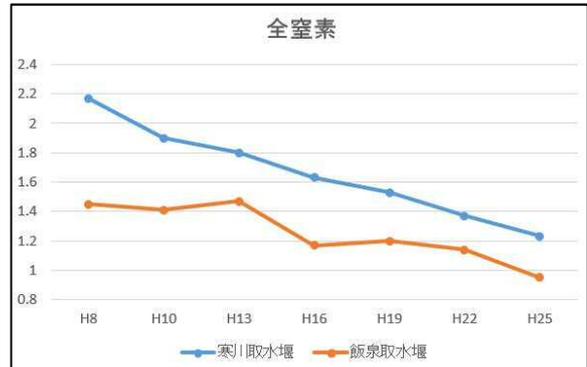
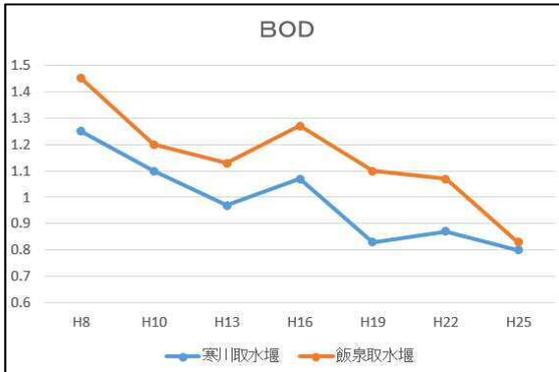
【荒川水系】

(S58～)

発生年	S58	59	60	62	63			
日数	4	65	38	55	2			
発生年	H2	3	4	5	6	7	8	9
日数	18	5	17	6	34	19	156	21
								29
								52

指標案⑤

取水堰における環境基準の達成度 (BOD、N、P)



【相模川水系】

境川橋	H8	H18	H27
BOD	1.5	1.2	1.0
全窒素	1.6	1.4	1.2
全リン	0.14	0.11	0.098

相模湖	H8	H18	H27
BOD	1.1	1.4	1.2
全窒素	1.4	1.4	1.2
全リン	0.095	0.087	0.085

寒川取水堰	H8	H18	H27
BOD	1.4	1	0.8
全窒素	2.3	1.6	1.3
全リン	0.092	0.052	0.048

【酒匂川水系】

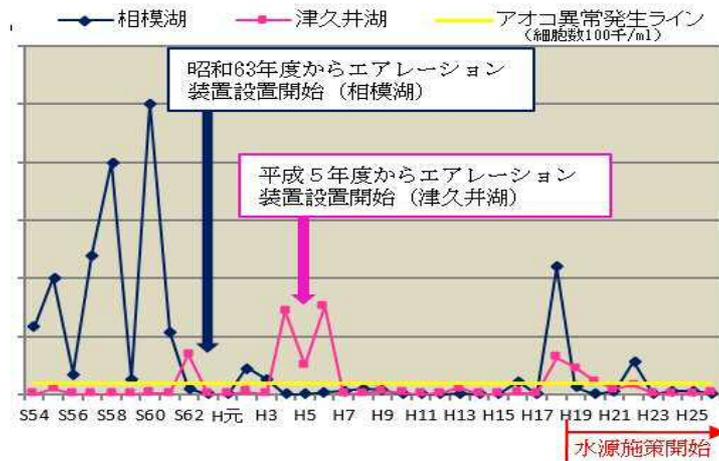
県境	H8	H18	H27
BOD	2.2	0.8	0.8
全窒素	1.6	1.2	1
全リン	0.26	0.19	0.12

丹沢湖	H8	H18	H27
BOD	1	0.6	1.1
全窒素	0.62	0.76	0.5
全リン	0.011	0.009	0.007

飯泉取水堰	H8	H18	H27
BOD	1.6	1.2	0.7
全窒素	1.5	1.1	0.91
全リン	0.13	0.12	0.081

指標案⑥

相模湖・津久井湖におけるアオコの発生状況



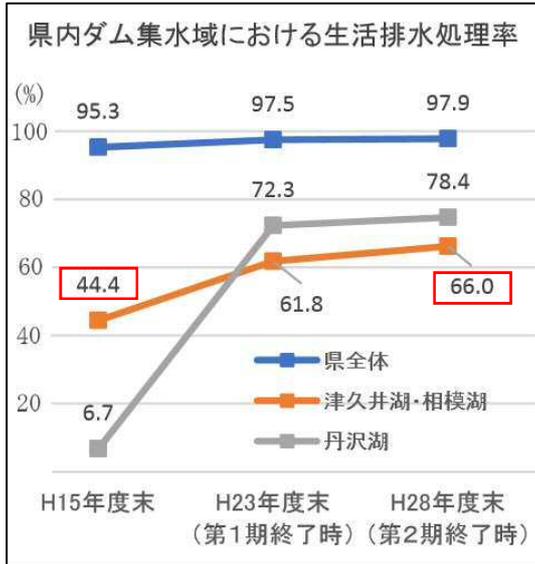
[S54~H18 (28 年間)]
相模湖 12 回 (年)
津久井湖 5 回 (年)



[H19~H28 (10 年間)]
相模湖 1 回 (年)
津久井湖 2 回 (年)

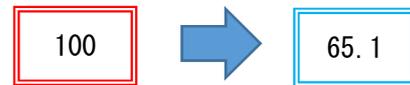
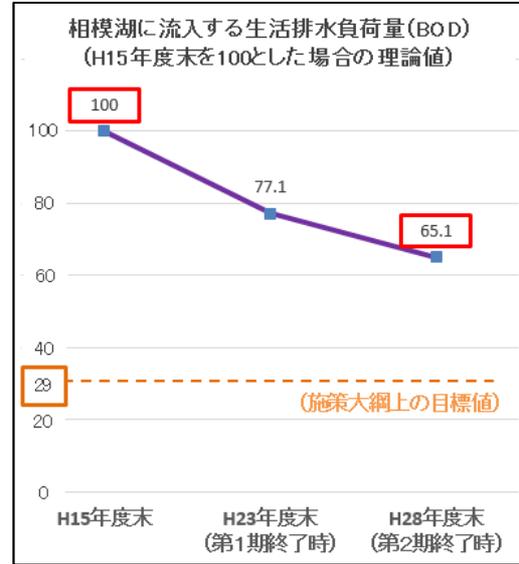
指標案⑦

相模湖・津久井湖の集水域における生活排水処理率



指標案⑧

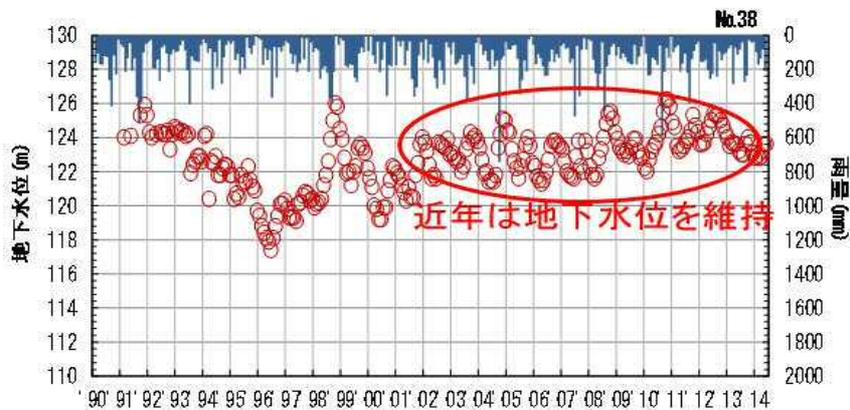
相模湖に流入する生活排水負荷量 (BOD)



指標案⑨

地下水の水位レベル

【秦野市:地下水水量モニタリング結果】

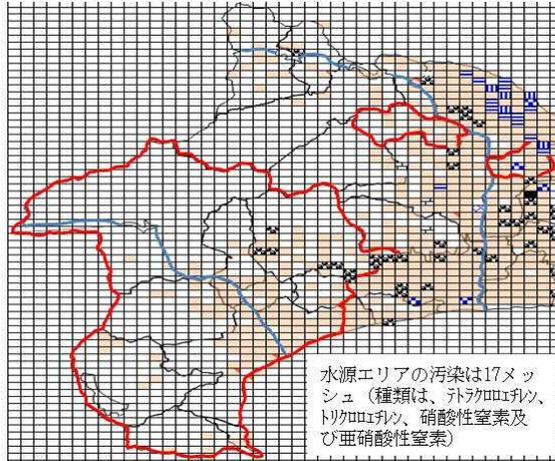


施策開始以降は地下水位を維持

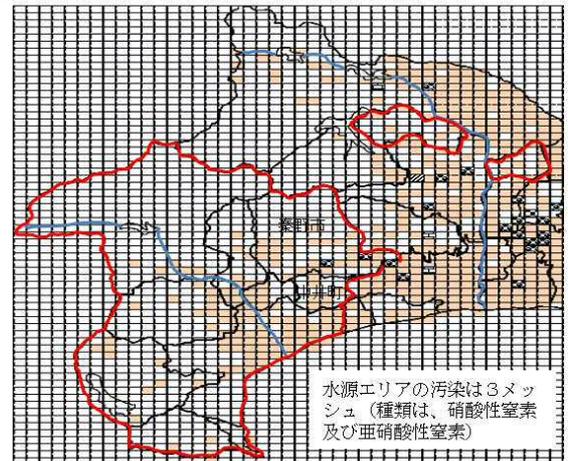
指標案⑩

地下水汚染がない水道水源地域

【平成14年度～17年度地下水質汚染状況】



【平成22年度～25年度地下水質汚染状況】



5地域 / 8地域



6地域 / 7地域 (H29 末)